

(2) 生活環境整備活動編

生活環境整備活動の方法

○ 広報啓発活動

「鍵掛け運動」「声かけ運動」など、犯罪に強い環境をつくるための広報啓発

○ 生活環境実態の点検

前記五策(1)の自主防犯(パトロール)活動によって「公園や遊び場」「廃屋、空き家など」「ゴミの不法投棄」「落書き」の点検をしましょう。

他の活動団体などと情報を交換し、生活環境が悪化していないか点検をしましょう。

○ 生活環境整備活動

・人の目(監視性)の確保の視点

《照度の確保》

道路、公園、駐輪(車)場の照度を確保するための防犯灯の設置を働きかけましょう。

門灯を街路灯代わりに使用するなどの方法もあります。

《見通しの確保》

見通しを確保するため、管理者と連携し、公園などの植栽を剪定しましょう。

危険の多い場所になりやすい公衆便所の見通しを確保するため、管理者と連携し、周囲から見やすい環境を確保しましょう。

・犯罪を企てている人の接近の防止(接近の制御)の視点

ひたつくりの被害が多い道路においては、管理者と連携し、犯罪を企てている人がオートバイに乗ったまま歩行者に接近するのを防止するため、支障のない範囲で植栽などによって歩行者と車両を分離し、接近の制御を図りましょう。

・地域の共同意識の向上(領域性の強化)の視点

軽微な犯罪であっても放置されれば犯罪を企てている人に地域の連帯感の無さを見抜かれ、犯罪の増加につながるなどの考えに沿って、落書き消しやゴミ拾いなどを行いましょう。



ロードボランティアによる清掃活動

生活環境整備活動の着眼点

自主的な活動による生活環境整備をする場合は、あらかじめ管理者への確認と連絡が大切です。

○ 防犯灯の故障や整備の必要な場所はないか。

○ 特に暗がりなど犯罪や事故が発生しやすい危険な場所はないか。

○ 公園などの遊び場、公衆便所に異常はないか。

○ 落書き消し、ゴミ拾い、植栽の剪定など自主的な活動により改善できるものはないか。

○ 警察や市町村などへの通報による危険箇所の改善の必要はないか。



まんぼうパトロール土佐市水



高須地区の青色防犯灯